

学 長 式 辞

佐賀女子短期大学、こども未来学科3つのコース、地域みらい学科4つのコースの課程を修了した卒業生、そして日本語別科の課程を修了した修了生、地元佐賀、日本各地から、そして、ミャンマー、ネパール、韓国から、この大学に集い、学んできた172名のみなさん、佐賀女子短期大学の教職員一同および在校生を代表して、心からお祝い申し上げます。みなさんに素晴らしい春の太陽の光が降り注いでいるように見えます。

今日まで学生たちを支え、励ましてくださった来賓の同窓会若楠会・山口美保子会長、ご家族・ご親族の方々、実習やアルバイトなどで支援いただいた施設や県民・市民の方々に對して、卒業生、修了生とともに、心よりの感謝を申し上げます。

私は、2年前4月2日の入学式を思い起こしています。その日は、学長に就任した翌日、今ここにいるみなさんとともに迎えた初めての入学式でした。だから、みなさんは、私にとって同級生のような存在でもありました。

みなさんにとって、どんな2年間でしたか？日本語別科のみなさんにとってはどんな1年間でしたか？キラキラしていたり、どんよりしていたり、微笑みに包まれていたり、涙でにじんでいたりと、さまざまな思い出があると思います。

私には充実したやりがいのある2年間でしたが、うまくいかないこともたくさんありました。想定外のことが起きたり、期待に十分添えなかつたりしたこともあったかも知れませんが、けれども、目標に向かって真剣に取り組むみなさんの姿に励まされ、懸命に働く教職員とともに、この大学の未来をもっと豊かにしたいとがんばってきた2年間でした。結果、2年前は影も形もなかつた「武雄アジア大学」構想ができ、武雄市と旭学園が協働し、佐賀県の支援を受けて、2年後の開学をめざして一歩また一歩と歩みを進めているのです。みなさんの母校、佐賀女子短期大学の維持発展も4年制大学の新設も、とても大きな挑戦をしています。短大も4年制大学も、学び続ける場があることで、教育が切り拓く未来を信じているからです。

2年前の入学式のこんな言葉を覚えていてくれたらうれしいのですが、私はこう言いました。「迷ったとき、壁に突き当たったときは、あなた自身のドローンを飛ばしてみましよう。ドローンはあなたを見ているもう一人のあなたです。空を飛ぶ鳥の目のように高いところ、遠いところから、落ち着いて自分を見つめ直してください。焦らなくてもいい、急がなくてもいい、人生にはまだまだ先があります。楽しみはもっと用意されています。物語はまだ始まったばかりだとあなたのドローンが教えてくれるでしょう」と。この言葉は、今、新たな道に踏み出そうとしているみなさんにとって、きっと役に立つことを保証します。

みなさんには、佐賀女子短期大学を卒業したことに誇りを持ってほしいと思います。誇りとは、学歴、つまりどんな名前前の大学を卒業したかではなく、学習歴、学んだこと、身に付

けたことへの確信から生まれるものです。みなさんがここで得たことは、他のどんな大学の卒業生にも負けないと胸を張ってください。

さて、人生の先輩として、みなさんには大変残念な事実を言わなければなりません。戦争、環境破壊、格差の問題など、世界と日本の前途は決して明るいものではありません。それ以上に、むしろ問題は日々の社会生活の中にあるかも知れません。毎日、毎週が、ワクワク、楽しくてたまらないということはまずありません。来る日も来る日も飽き飽きするほど同じことの繰り返しとを感じる方が多いかも知れません。しかも、世界で最も女性が輝きにくいとされる日本です。オトコ優位の環境で生きていくのは本当に厳しいと言わざるをえません。別の困難に直面して、母国に帰ろうかと悩む卒業生もいるかも知れません。そんな中で人間的なしなやかさを磨いていくには、どうすればいいのでしょうか？ 常に自分を見失わず、ちょっぴり謙虚になり、大切なこととそうではないこと、意味のあるものとないものを選び、自分がやるべきことを落ち着いて判断していく。そのために、あなたのドローンはいい相棒になります。

苦しい立場に立たされたとき、大学時代の思わぬ記憶や経験に力をもらうことがあります。退屈で難しただけと思っていた大学の授業の内容が突然浮かんできたり、同級生の面倒くさい忠告を思い出したり、本の一節がスラスラ出てきたり。もしかしたら、それが大学の値打ちなのかも知れません。

耳の痛いことを言いましたが、反対に、新しい社会の担い手としてみなさんの登場を心待ちにしている人たちもたくさんいます。これから始まる新しい仕事や生活に、自分自身が培ってきた知識や経験、スキルや人間力を思い切ってぶつけていきましょう。今、発展している国、会社、地域コミュニティでは女性が活躍しています。女性が輝くことなしに、社会の発展はあり得ません。

今年のNHK大河ドラマは、吉高由里子さん主演の「光る君へ」です。私はこのドラマのPRのためのコピーにとっても惹きつけられました。

それは、「わたしを生きてみせる」です。

仕事をする「わたし」、人を愛する「わたし」、家庭を持つ「わたし」、海外で生活する「わたし」。この言葉からは、自分が選び取った選択を貫く勇気を感じます。「生きてみせる」ためには、時には何かを捨てること、反対や孤立、待ち受ける困難に立ち向かわなければならぬこともあるでしょう。そうしたものから逃げない意志を感じます。

「わたしを生きてみせる」

みなさん一人ひとりの「わたし」が、これから長く続く人生において、色とりどりに輝きますように。そんな願いを込めて、私の祝辞とします。

あらためて、卒業おめでとうございませう。レッツゴー！ サジョタン卒業生！

2024年3月14日

佐賀女子短期大学 学長 今村 正治